

海の近くや河口付近にいるときに、津波からどのようにして身を守ればよいのでしょうか。



調べてみよう ▶ 海の近くにいるときの津波からの避難場所

みやぎ 宮城県内の沿岸自治体は東日本大震災の被害も反映させ、津波が来るおそれのある地域と指定避難場所などを記した地図やハザードマップを作成しています。海の近くに行ったとき、津波から逃れられるよう、どこに避難したらよいか調べてみましょう。

七ヶ浜町津波ハザードマップ

- 津波避難場所(高台)**
津波の危険が切迫した緊急時に安全性が確保される、一時的に避難するための場所。
- 指定避難所(施設、建物など)**
避難した住民や災害により家に戻れなくなった住民などを滞在させるための施設。
- 広域避難場所**
災害発生で大規模な避難を要する場合、それに適した広さなどの十分な条件を有する公園や学校などの場所。
※七ヶ浜町では「拠点避難所」としています。

津波避難ビル
緊急的に一時避難するためのビルや高架橋などが津波避難場所として指定されている。

(提供：七ヶ浜町役場)

防災情報

津波浸水の危険を示す標識

津波浸水の危険のある地域には、右のような標識などが設置されています。



津波浸水区域を示すさまざまな標識など

津波の危険を示す標識がどこにあるか確認しておくこと実際の避難に役立つね。



津波からの避難行動

前章の「津波の特徴」で学んだことを踏まえ、津波からの避難行動を確認しましょう。

- より高い所へ**
海や川から離れ、高台にある津波避難場所に逃げましょう。
- 大津波警報、津波警報や津波注意報が出ている間は避難を継続**
津波は繰り返し襲ってくるので、大津波警報、津波警報、津波注意報が出ている間は、決して戻らないようにしましょう。
- 揺れを感じなくても大津波警報や津波警報、津波注意報が出たら避難**
揺れの強弱に関わらず、大津波警報、津波警報、津波注意報が出たら避難しましょう。



幼児と津波からの避難方法を確認する中学生(石巻市)

津波からの避難方法を普段から地域の人たちと確認しておきましょう。



津波に関する情報

気象庁が発表する津波に関する警報や注意報には、次のような意味があります。海の近くや河口付近にいるときに強い揺れを感じたり、弱くても長い時間ゆっくりとした揺れが続いたりした場合は、こうした警報などを待たずに、すぐに避難を始めましょう。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	行政が発表する情報
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の場合の 表現		
津波注意報	1m (20cm ≤ 高さ ≤ 1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしない。	避難指示
津波警報	3m (1m < 高さ ≤ 3m)	高い	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	
大津波警報 (特別警報に位置づけ)	5m (3m < 高さ ≤ 5m)	巨大	▶ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難！	
	10m (5m < 高さ ≤ 10m)			
	10m超 (10m < 高さ)			

(出典：気象庁広報資料を加工して作成)



ハザードマップをもとに、実際に避難場所まで歩き、避難場所の位置と経路(ルート)、避難場所に着くまでの時間を確認しておきましょう。